

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立川内学校		
学校長氏名	山田 明美	栄養教諭氏名	阿壽賀 由紀
職員数	65 名	児童・生徒数	1015 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食育の推進にあたっては、保体部で食に関する指導の全体計画や食育年間指導計画を立案し、教科と関連した指導や取組を行い、「感謝してバランスよく食べる子どもの育成」をテーマに掲げ、児童の健やかな体と豊かな心の育成に努めている。

本校の児童は、全体的に明るく元気である。また、素直で思いやりがある。給食では、好き嫌いがあるが、残さず食べようとする児童が多い。以前に比べ減ってきているものの、おかずに比べ、ごはんの残食が多い傾向にある。また、食の大切さを理解している児童も多いが、それを実践にいかすことが難しい。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

給食時間のさらなる充実を図ることを目的とし、給食目標を設定して、給食目標チャレンジカードを各学級に配布。

給食目標チャレンジカードの内容を達成できるクラスが全体の70%以上になる。

4月～9月 「時間を考えて食べよう」

決められた時間までに準備する

10月～3月 「静かにマナーよく食べよう」

もぐもぐタイムは、静かに食べる

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 「お弁当の日」

土曜参観・運動会予備日・校外学習の日を「お弁当の日」とし、自分で弁当箱や水筒などの準備をする「ありがとうコース」から全部自分で作る「腕自慢コース」の5つのコースを設け、自分で目標コースを決め、できる範囲でお弁当づくりに取り組んだ。今年度は、実践する機会を増やすため設定日を1日増やした。

高学年では、家庭科での実践とつながるよう指導し、学校・家庭で連携して実施した。

作ってきたお弁当の写真や感想を掲示やおたより等で知らせ、次への実践へつなげるよう指導した。また、保護者の感想も募集することで家庭との連携を図った。

お昼の時間に教室に行く時、「先生、あのね、今日はわたしがたまごやき作ったんよ。ハートの形にした。」
「わたしはね、おむすび作った。熱かったよ。」と嬉しそうに教えてくれました。
自分で作ったお弁当は、特別な味がしたようでした。



【取組2】(テーマ) 教科等における食に関する指導と給食の連携

本校では、地域の畑を借りて、じゃがいも、さつまいも、広島菜の栽培・収穫を生活科や総合的な学習の時間を通して、食や命の大切さを学習している。それと地域の方が栽培されている野菜を使用してオリジナル給食を実施している。じゃがいもには、地域のきゅうりやなすを加え「川内っこ給食」を実施し、広島菜は家庭科の学習を生かして「地場産物を使った広島らしいメニューを考えよう」(言語・数理運用科)で児童が考えたメニューを給食で実施した。生活科、社会科、家庭科、総合的な学習の時間、言語・数理運用科など、発達段階に応じて教科と関連付けながら、食の学びの連続性を考えた実践を行っている。それらの学習は、地域の方や幼稚園の先生との交流給食を通して、食への関心や楽しみを高めている。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

ひろしま給食100万食プロジェクトについて、資料等を使って事前に児童や教職員に伝え、周知を図った。事前の食育だよりで、その内容や実施について家庭に知らせ、その後の食育だよりで「ひろしま給食つくレポ!」として作ってみた感想を募集した。集まった「ひろしま給食つくレポ!」での保護者や児童の感想をさらに次の食育だよりに載せ、続けて感想をよせていただくようお知らせをした。学区内のスーパーにも、食育だよりやリーフレットを置かせていただき、地域へもお知らせをした。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

給食目標チャレンジカードでは内容を達成できるクラスが69.4%(昨年度56.6%)で、ほぼ目標を達成することができた。また、給食時間の過ごし方を担任や児童がしっかりと考える機会となった。

お弁当の日は、実践することで、料理をする難しさや親への感謝を感じるようになった児童が多くいた。今年度で4年目の取組となっているため、昨年度よりも児童の食への関心の高まりや成長を感じたり、親子でふれあう機会になったりしたという保護者からの感想もいただいた。

6年生の言語・数理運用科で考えた献立を今年度はクラスごとに実施した。地域の野菜を給食に取り入れたり、児童が考えた献立を給食で提供したりすることにより、より身近に感じることもできた。またクラスごとに、全校へのビデオ放送でのお知らせを行うことで、6年生自身も再度考える機会になった。また、下学年にもしっかりと周知ができ、児童が地域や給食に対し興味・関心を高めることができた。

【課題】

児童や教職員に対し、取組のねらいや目標についての周知が徹底できていなかった。今以上に連携をとることによって、内容をしっかりと把握できた取組となるように高める必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

給食指導、食に関する指導の充実や地域・家庭等の連携をより一体化させ、系統的・横断的な取組を行うよう全体計画を考え、学校全体で取り組んでいく。